

三郷小学校・橋波小学校統合校建設設計者選定プロポーザル審査の結果について

- 1 第1回審査委員会 平成28年12月6日（火）
 - ・委員長、副委員長の選出
 - ・市長より諮問書收受
 - ・審査委員会の運営（スケジュール、議事録、傍聴等）について決定
 - ・プロポーザル実施要項、評価項目、評価基準及び配点等について決定
- 2 第2回審査委員会 平成29年2月10日（金）
 - ・10者から参加表明書の提出があったが、1者から辞退届の提出があり、一次審査において9者から4者を選定
- 3 第3回審査委員会 平成29年2月19日（日）
 - ・二次審査における公開プレゼンテーション及びヒアリングの実施
 - ・二次審査と一次審査の評価点を合わせて、二次審査対象4者から最優秀者及び次点者を選定

【最終評価一覧表】

順位	業者名	評価点
最優秀者	株式会社 昭和設計	558
次点者	株式会社 長大 大阪支社	475
3	A	461
4	B	408

【最優秀者講評】

本統合小学校を計画するにあたっての基本的な方針である「これからの新しい教育の在り方（アクティブラーニングの実践等）について、どのように考え、空間化するのか」「現在の学校と地域との関係をどのように深化していくのか」「都市に立地する学校としては、全国に誇れる豊かな緑の環境をどのように活用するか」の3点を評価の主要な基準とした。

最優秀者の提案は、その3点を的確に、かつ、独創的、未来的に捉えている点、さらには、その3点がバランスよく計画されているに留まらず、相乗的に空間性を高めていくような提案となっている点を高く評価したい。特に、楠の大木等の緑との親和的・浸透的に配置された教室群、並びに、クラスルーム・オープンスペース・テラスがテキスタイルのように織りなす変化に富んだ空間づくりは、まさに、これまでの教室周りの計画手法を遥かに越えて、新しいアクティビティを触発する期待感がある。また、地域連携という点か

ら見ても、従来の単純な学校開放というレベルを超えて、学校と地域が一体となって子どもたちを育てていく、授業でも地域の方々が積極的に参加することができるような、新しい連携の場が作られており、未来型の学校づくりの可能性を拓いている。

その結果、これまでの学校計画において守口市が重視してきた地域特性に応じた学校の個性化が、地域連携や豊かな自然環境の積極的な活用を通して実現されている。



(最優秀者が提案したイメージ図)

【次点者講評】

教室周りの計画は、非常によく練られた提案である。低中高学年で計画が異なり、それぞれの発達段階に応じた活動内容に対応できる空間づくりや子どもたちが自然に様々な活動ができるような計画に優れている。小集団を活動の基本単位としつつ、時間毎の変化に肌理細やかに対応するというアクティブラーニングの捉え方も的確であり、二つの性格の異なるメディアセンターが階を違えながらも、中庭を挟んで対面する計画に新たな学校づくりの可能性を感じる。また、2層に押さえて周辺の住宅とのボリュームの連続性を図るなど、学校を家と捉える考え方も肯首できる。

その反面、さんあい広場・PTA等の地域の間がやや孤立するなど、地域との連携という点では、審査委員会が想定している未来型の地域連携に到達できていなかった点が惜しまれる。



(次点者が提案したイメージ図)

【第3位者講評】

学びや地域連携の場を、多様に相互連関的に作っていくという意欲的な提案になっており、まさに新しい学校づくりの可能性と熱意が感じられた。「くすのき広場」を囲むように配置された地域の間や、東西両面ともに歩道の拡張や緑道・広場の計画がなされ、地域の気軽な立ち寄りと活発な地域活動や連携活動を触発している。

しかし、アクティブラーニングの拠点として点在する「ほたる」、あるいは「渦」という考え方は、実際の空間としてどう作られるのかというところが見えにくく、アイデアとしてはおもしろいが、それを空間化する際の具体性や新しさがあればよかった。また、教室周りで、廊下を分離せざるを得ないような学年ブロックの考え方や配置方法、教室群から離れたメディアセンターの配置など、子どもたちの場所の計画に課題が見られた。

【第4位者講評】

無理なく使えるような学校の計画が提案されているが、「学びのスパイラル」や「ティンカースペース」など、今までの学校づくりの延長線上で、それを最大限にリファインした空間計画といった印象である。全体にコンパクトに纏められてはいるものの、子どもたちのアクティブさ（元気の良さ）や楽しさが生まれ難いように感じられた。低中高学年のまとまりが崩されて、1年ブロックが1階に、6年ブロックが4階に孤立していること、その結果、4層構成となり、中庭に圧迫感を与えていること等も問題とされた。

また、今回の審査で重要視していた地域連携や自然環境の活用についても、もう少し積極的で新しい提案があるのではないかと考えられ、未来を見据えた計画が求められる。

【公開プレゼンテーション及びヒアリング審査の様子】

